

くまぷうさんトーク&ライブ!

多発性硬化症という難病と20年以上おつきあいしているくまぷうさんと竹田英雄さんのトーク&ライブを10月7日に実施しました。何年も寝たきりの状態からリハビリを積み重ね、立ち上がって歌うくまぷうさんの姿、どんなときも夢をあきらめないという姿勢、心にしみ通る歌声、詞。

当日は、現場実習中の学生を除く120名の学生と教職員が出席しました。逆境をチャンスに変えるという人生のありかた、元気と勇気とやる気をいただいた時間でした。



(学生の感想から)

・くまぷうさんの歌は、勇気を与えてくれ、将来とちゃんと向き合って精一杯生きて行かなきゃという元気をくれました。私は今悩みがあったのですが、悩んでいても前に進まない、前を向いて今の自分とちゃんと向き合っていこうと思うことができました。

・改めてあきらめないことをについて学びました。8年間の闘病生活や離婚、家族の死など苦しい体験をしながら、障害を困難や不幸と考えるのではなく、チャンスと捉える考え方にたどりついたというところに感動しました。

・一番印象に残っているものは"Learning a hard way"ということです。わざわざ難しく険しい道を学ぶという前向きで挑戦的な姿勢は、今の私にも必要なことだと思いました。

・病院のスタッフの人に支えられたから、叱咤激励されたから自分は頑張ることができたと聞くと、OTの仕事は患者さんの身体的なことも、精神的なことも、人生にも関わることであり、改めて重要な仕事だと思いました。



・障害を受容出来るのは、その人自身の性格だけでなく、出会った人や経験したことが大きく関わっておるのだと感じました。「自分で限界を決めなければ終わりはない」「障害があるからといって夢などをあきらめる必要はない」という言葉が印象に残りました。初めて聞いた訳ではないけれど逆境を乗り越えてきた竹田さんの言葉は心に響きました。

・話すことすらできなかつたくまぷうさんの素晴らしい歌をきかせていただき、可能性が無限であることを感じました。私も患者さんと一緒に夢を追い続けるOTをめざしたい。

・話と歌を聴いて、考え方に驚きました。とても前向きで、歌詞にもあるように、「出来ない理由をチャンスに変えて」というところが印象的でした。障害を持つということは、そこで夢をあきらめるに等しいことだと思っていました。けれど、そこからがスタートなのだということを胸に、そのスタートを後押しできるような作業療法士を目指したいと思います。

